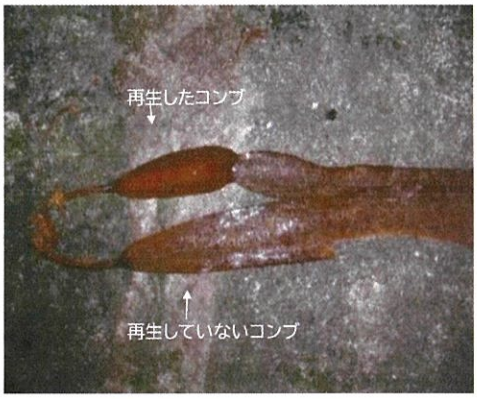
①採苗(母藻陸揚→母藻管理→採苗→沖だし)

【採苗】
・採苗日までに母藻を用意(実施時期は、11月～12月　海水温10度以下)
・実施回数は年2～3回に分け、一人当り約20本(70m/本)程度を採苗。
・15℃の海水温に母藻投入し温度刺激により遊走子を放出させる。
・遊走子を含む海水をロープが入った水槽へ注入する。
・遊走子がロープに着底するまで暗室で一晩おき、翌日沖だしする。

②巻き付け(根縛り・巻き付け・沖だし作業)

【種苗育成】
・採苗後、海上施設により1年間種苗を育てる。(12月～翌11月頃まで)
【本養成】
・1年間育てた種苗を陸揚し、種コンブを選定後、根縛り・巻き付けし沖だしする。
・実施時期は11月～12月頃

種苗を海上施設から陸揚し再生し種昆布となる昆布を選定



種昆布を4～5本まとめ根を縛り、ロープ(養成綱)に巻き付け、沖出しする。

(調査)成コンブスタート時の湿重量

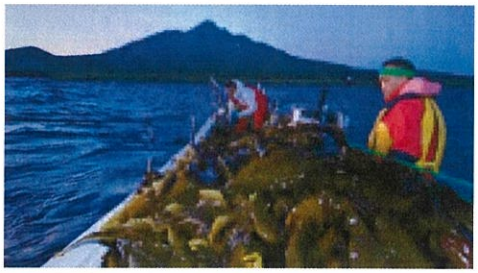
・沖で成長した種昆布を陸揚げ後、本養成綱に巻き付するための選別された種昆布30本の湿重量を計測し、1枚当たり湿重量を推計。

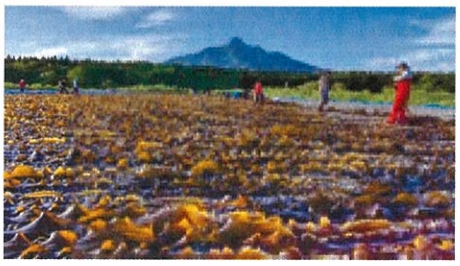
③手入れ(雑草除去・水深管理等)

・ロープについた雑藻やホソメをとり、ロープに絡みついたコンブの手入れ等を行う。(1月～5月)
・3月からは、徐々に垂下深度を引き揚げ実入り管理を行う。(6月の収穫時期まで)
・春先の低気圧等による時化でロープが切れる等の被害を抑えるため海況により垂下深度は調節する。

④水揚げ

・水揚げは6月中旬頃から行われる。7月にかけ段々実入りは向上するが、ヒドロゾアが発生した場合の品質低下を避けるため収穫時期は漁家毎に判断し行われる。
・陸揚は海中の養成綱を漁船に引き揚げ、トラックに積込み、干場へ運ぶ。
・干場では養成綱から昆布を根本付近で切り離し、風上に向けて昆布を干す。





(調査)成コンブ湿重量調査

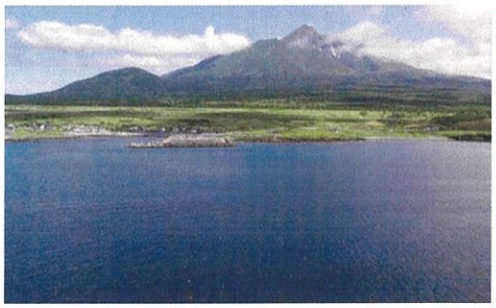
・水揚げされ、昆布干場へ搬入された、養殖ロープに巻き付けられたリシリコンブを、6株分を対象に調査。湿重量を計測。
・株とは4～5本根縛りされ、養殖ロープに巻き付けられた単位。

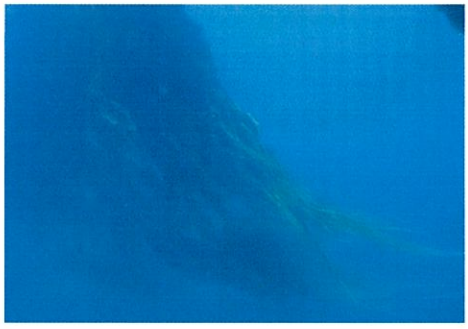
(調査)種コンブ湿重量調査

・リシリコンブ養殖漁場の種コンブ(1年目)養殖場所へ調査船で移動し、海中の養殖ロープを海中から船上に吊り上げ、1m分を刈り取り。

今後の取り組みについて

今後の取り組みについて





今後の取り組みについて

利尻富士町・利尻町・礼文町

令和5年3月
ゼロカーボンシティ共同宣言

利尻富士町

令和6年4月に利尻富士町地球温暖化計画を策定。

⇒　二酸化炭素吸収減の整備として、ブルーカーボン生態系の保全に言及。磯焼け対策事業を推進し、ブルーかカーボンに寄与する藻場の整備、新たな吸収源として水産養殖の研究を推進することとしている。

ZERO CARBON
HOKKAIDO
RISHIRI/RISHIRIFUJI/REBUN

ゼロカーボンシティ共同宣言

～2050年　二酸化炭素排出量実質ゼロをめざして～

地球温暖化による気候変動は、全世界共通の避けて通ることができない喫緊の課題となっており、暴雨や猛暑といった異常気象による被害の増加、生態系への影響等は利尻島・礼文島にも出始めております。

２０１８年に公表されたＩＰＣＣ（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「産業革命前から平均気温上昇の幅を２℃未満とし、１．５℃以内に抑えるためには、２０５０年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとすることが必要」とされています。

また、我が国においても、２０２０年１０月に政府が「２０５０年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しました。

さらに、北海道においても、地域資源を最大限に活用しながら、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進める「ゼロカーボン北海道」の実現を目指すこととされました。

利尻島・礼文島は、「利尻礼文サロベツ国立公園」内にあり、希少な高山植物や雄大な景観などが多数あります。

来年の国立公園指定５０年を目前に控え、あらためてこの豊かな自然を子どもたちや未来へ引き継ぐためにも、私たち自身が先頭に立って温暖化対策に積極的に取組むことが必要です。

このため、利尻町・利尻富士町・礼文町が一丸となって、２０５０年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、「カーボンニュートラルに向けた取組」について、３町一体となって推進していくことをここに宣言します。

令和５年３月

利尻町長　上遠野　浩　志
利尻富士町長　田　村　輝　二
礼文町長　小　野　　徹

今後の取り組みについて

・安定的なリシリコンブの生産によるCO_2吸収源の創出・拡大

⇒磯焼けの解消・生物多様性の保全・漁業振興

・「昆布」の「食」以外の新たな付加価値をPR

⇒昆布の認知度向上・消費拡大、新たな担い手の創出への期待

～日本のだし文化を守る～

・気候変動緩和策を実施しリシリコンブを種として守る

・コンブの魅力を発信し、消費の拡大等を通じ生産活動を守る